



菊川市遺族会
会長 鈴木 榮 さん
(三軒家)

先の大戦終結から早77年が経ちました。戦争を知らない世代が国民のおよそ8割を占めると言われていますが、その悲惨な体験をここに改めて思い起こし、広報紙を通じて多くの皆さんに伝える機会とすることができました。

くしくも今、ロシアがウクライナに攻め込むという事態に直面し、80年前と同じことが繰り返され、人間には進歩というものはないのかと悲しい気持ちにさせられます。

SNSなどでは、走行中の戦車がいとも簡単に破壊され、銃を持った兵士が狙撃兵に射殺される映像が流れています。戦争では、攻める側も守る側も犠牲があり、その犠牲者には、親や兄弟、愛する妻や子がおり、その悲しみは、一生続くものであります。

先の大戦で戦死した人の家族の悲しみの一部をご覧いただき、平和希求への参考にいただければ幸いです。また、市内各地にある戦没者慰霊碑の前を通りましたら、「祖国を守れ」という命令に従い出陣していった兵士の霊に一礼していただければ幸いです。

— 菊川市戦没者追悼式 —

戦争で亡くなった人を偲び、平和について考えてみませんか。

日時 8月15日(月)午前11時45分～午後1時15分(予定)

会場 文化会館アエル大ホール

対象 どなたでも

内容 戦没者追悼式典、献花、「戦没者ご遺族の手記」の朗読、戦没者名簿の展示

— 平和祈念の黙とうを捧げましょう —

原爆死没者など、戦争で亡くなられた人々を追悼し、平和を祈念するため、サイレンの吹鳴を行いますので、黙とうをお願いします。

・ 広島、長崎に原爆が投下された日

日時 8月6日(土)午前8時15分から1分間

8月9日(火)午前11時2分から1分間

・ 戦没者を追悼し、平和を祈念する日

日時 8月15日(月)

正午から1分間



▲戦没者慰霊碑や防空壕を見学する2人。身近な場所にも戦争の記憶が残っていることを実感しているようでした。



菊川市遺族会
会長 寺本 達良 さん
(中嶺田)

伝えられています。当時34歳だった父親の遺骨や遺品は、何もなかったそうです。父親との最後の思い出は、出征の日のこと。出征が決まった父を見送ろうと急いで駅まで行くと、遠くのホームに父の姿が見えたそうです。すると、寺本さんたちに気づいた同僚兵士が、父親を手前のほうに出してくれたそうです。寺本さんは、「その時に父が提げていた竹筒の水筒をはつきりと覚えていました」と、

寂しそくに語りました。父親が居ない悲しみ
「とにかく、戦時中も戦後も父がいないのが大変でした。私が高校生になると、一家の長として地域の会合などに参加することになりましたが、周りが大人ばかりで相手にしてもらえませんでした。中には『遺族だからお金がもらえていいね』なんて言う人もいて、本当に悔しい思いもしました。『お金なんかより、お父さんが居たほうがいいに決まっています』そう思う日々でした」と、寺本さんは、若くして父親が居なくなった苦労を話してくれました。そして「戦争なんかやるもんじゃない。」

本人はもちろん、家族もみんな辛い思いをするし、残る人は惨めな思いをする」と、ぼつりとおぼやきました。
遺族として伝えたいこと
取材中、寺本さんは何度も「戦争なんてやるもんじゃない」と口にしていました。そして最後に、「戦争に行った人に、好きで行った人は1人もいません。ただ、みんな『お国のため』『みんなのため』に行ったのです。そういう思いを、今の人たちにも知ってもらい、伝えていってほしい」と、中学生に語り掛けました。
2人は、静かに深く頷いて、寺本さんの思いをしっかりと受け止めているようでした。

戦争が身近にあった出来事だと知りました



菊川西中学校
福祉委員会 委員長
山崎 紗羅 さん
(打上)

「戦争はやってはいけない」と何度も何度も寺本さんが口にしていて、やはり戦争を経験しているからこそ、私たちに伝えたい言葉だと心にしました。お話を聞いたり、慰霊碑や防空壕を見学したりして、菊川市に今も実際の戦争の爪痕が残っていることを知り、戦争は昔、本当に身近にあった出来事だと知りました。

だからこそ、戦争をやってはいけないということを、自分たちも理解し、伝えていけたらいいなと思います。